

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名： 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者: 関東鉄道(株) 系統: 水戸駅～石岡駅	水戸駅～奥ノ谷～石岡駅	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	A 輸送人員74,200人の目標に対し, 92,125人で目標を達成した。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道(株) 系統: 筑波山口～土浦駅西口	筑波山口～土浦一高前～土浦駅西口	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	B 輸送人員169,300人の目標に対し, 119,178人と目標を達成できなかった。要因としては通学利用者の減少が考えられる。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道(株) 系統: 水海道駅～土浦駅西口	水海道駅～みどりの駅～土浦駅西口	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	A 輸送人員70,100人の目標に対し, 82,288人で目標を達成した。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道(株) 系統: みどりの駅～土浦駅西口	みどりの駅～農林団地中央～土浦駅西口	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	A 輸送人員58,100人の目標に対し, 252,528人で目標を達成した。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道(株) 系統: 岩井バスターミナル～守谷駅西口	岩井バスターミナル～きぬの里～守谷駅西口	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	A 輸送人員46,100人の目標に対し, 64,468人と目標を達成した。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道(株) 系統: 牛久駅～桜ヶ丘団地	牛久駅～桜ヶ丘団地	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	B 輸送人員58,100人の目標に対し, 47,993人と目標を達成できなかった。要因としては, 沿線団地住民の減少が考えられる。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名: 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
		した。		が考えられる。	る。
事業者: 関東鉄道株 系統: 牛久駅～緑が丘団地	牛久駅～森の里～緑が丘団地	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	B 輸送人員56,100人の目標に対し, 51,296人と目標を達成できなかった。要因としては, 沿線団地住民の減少が考えられる。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道株 系統: 藤代駅～自由ヶ丘団地	藤代駅～自由ヶ丘団地	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	A 輸送人員43,100人の目標に対し, 50,724人で目標を達成した。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道株 系統: 牛久駅～みどりの駅	牛久駅～桜ヶ丘団地～みどりの駅	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	B 輸送人員149,200人の目標に対し, 136,960人と目標を達成できなかった。要因としては沿線団地住民の減少が考えられる。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道株 系統: 取手駅西口～谷田部車庫	取手駅西口～高岡～谷田部車庫	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	A 輸送人員66,100人の目標に対し, 91,049人で目標を達成した。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道株 系統: 荒川沖駅東口～県立医療大学	荒川沖駅東口～東京医科大学病院～県立医療大学	鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り, 適切に実施された。	A 輸送人員53,100人の目標に対し, 62,802人で目標を達成した。	利用者の流動実態を把握し, 適切な運行を行うことに加え, 沿線住民に対し, 当該路線の周知活動等を実施する。
		鉄道線との接続等, 利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。		輸送人員30,100人の目標に対し,	利用者の流動実態を把握し, 適切な

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名： 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者: 関東鉄道(株) 系統: 竜ヶ崎駅～江戸崎	竜ヶ崎駅～済生会病院～江戸崎	確かに捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	B 21,246人と目標を達成できなかった。要因としては、通学利用者の減少が考えられる。	運行を行うことに加え、沿線住民に対し、当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道(株) 系統: 竜ヶ崎駅～取手駅東口	竜ヶ崎駅～光風台団地～取手駅東口	鉄道線との接続等、利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	A 輸送人員81,100人の目標に対し、81,879人と目標を達成した。	利用者の流動実態を把握し、適切な運行を行うことに加え、沿線住民に対し、当該路線の周知活動等を実施する。
事業者: 関東鉄道(株) 系統: 鹿島神宮駅～銚子駅	鹿島神宮駅～柳川上～銚子駅	鉄道線との接続等、利用客のニーズを的確に捉えた運行時刻の設定や土日限定IC1日乗車券の発売等の利用促進策を講じた。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	B 輸送人員103,100人の目標に対し、90,756人と目標を達成できなかった。要因としては、通学利用者の減少が考えられる。	利用者の流動実態を把握し、適切な運行を行うことに加え、沿線住民に対し、当該路線の周知活動等を実施する。
茨城交通(株) 系統: 大宮営業所～水戸駅	大宮営業所～中瓜連～水戸駅の運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施する。 ・中学3年生へ高校進学時のバス利用促進チラシの配布を継続し、通学利用者の増客を見込む。(常陸大宮市・那珂市) ・バス利用啓発活動として地域イベントでの時刻表配布、エリア内団地への時刻表ポスティングを実施する。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量32.1人、収支率61.1%以上の目標に対し、輸送量29.5人、収支率56.3%と、沿線学生の減少、燃料費高止まりによる運送費増加もあり目標に達しなかった。	・中学3年生へ高校進学時のバス利用促進チラシの配布を継続し、通学利用者の維持確保に努め増客を見込む。(常陸大宮市・那珂市) ・バス利用啓発活動としてICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(企画乗車券の販売・校外学習誘致・バス利用促進チラシの作成配布・運転免許証自主返納者支援事業)
茨城交通(株) 系統: 浜田営業所～御前山車庫	浜田営業所～石塚車庫～御前山車庫の運行	毎月実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 ・利用者の利便性を確保するため普通運賃・定期運賃の割引を継続して実施する。(実証実験) ・沿線市町と連携し、市報・町報を通じたバス利用の広報活動を行う。(水戸市・城里町)また、毎月1回庁舎内にて定期券の出張販売を継続して行う。(城里町) ・バス利用啓発活動として沿線の高齢者クラブ	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量48.0人、収支率75.0%以上の目標に対し、輸送量は45.3人、収支率69.5%と沿線学生の減少、燃料費高止まりによる運送費増加もあり目標に達しなかった。	・利用者の利便性を確保するため普通運賃・定期運賃の割引を継続して実施する。(実証実験) ・沿線市町と連携し、市報・町報を通じたバス利用の広報活動を行う。(水戸市・城里町)また、毎月1回庁舎内にて定期券の出張販売を継続して行う。(城里町) ・バス利用啓発活動としてICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名: 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
		に出向き、ICカードを利用したバスの乗り方教室、ICカードの出張販売を実施する。旅客のニーズに合わせたダイヤ改正を実施する。			・生産性向上の取組で設定した内容の実施(企画乗車券の販売・校外学習誘致・バス利用促進チラシの作成配布・運転免許証自主返納者支援事業・バスマップ作成配布)
茨城交通(株) 系統:太田営業所～里川入口	太田営業所～小中車庫～里川入口の運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 ・バス利用啓発活動として沿線地区(日立市中里地区)での利用促進説明会、ICカード出張販売を実施する。 ・バス利用促進活動として「路線バスツアー」を開催する。 ・沿線中学生に定期券案内チラシを作成配布する。 ・高齢者、免許返納者に対する助成制度継続して実施する。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量18.4人、収支率29.3%以上の目標に対し、常陸太田市内の交通再編によって想定された旅客の転移が想定よりも少なく、沿線学生の減少もあり、輸送量16.4人、収支率25.2%と目標に達しなかった。	需要の多い施設を考慮した利用者にとって使いやすいダイヤを検討し、地域公共交通機関として最適化された状況に改善する。 ・バス利用啓蒙活動としてICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(バスの乗り方教室の開催・公共交通を利用したバスツアーの開催・バスマップ時刻表の作成配布・高齢者運賃助成制度・運転免許証自主返納者支援事業)
茨城交通(株) 系統:水戸駅～水戸医療センター	水戸駅～桜ノ牧高校前～水戸医療センターの運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 ・通学定期利用者獲得のため、沿線各種学校にて新入生及び在校生を対象とした通学定期券の出張販売を実施する。(桜ノ牧高校) ・水戸医療センター通院者の利便性確保のためポケット時刻表を設置する。 ・沿線地区へバスマップ時刻表を作成し配布。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量57.2人、収支率70.0%以上の目標に対し、沿線学校移設による学生利用減少もあり、輸送量は54.3人、収支率65.2%と目標に達しなかった。	・通学定期利用者獲得のため、沿線各種学校にて新入生及び在校生を対象とした通学定期券の出張販売を継続して実施する。 ・水戸医療センター通院者の利便性確保のためポケット時刻表を継続して配布する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(バスマップの作成・ポスティングの実施・校外学習誘致)
茨城交通(株) 系統:茨大前営業所～那珂湊駅	茨大前営業所～アクアワールド大洗～那珂湊駅の運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 大洗町を舞台としたアニメの企画乗車券の販売を継続し、新たな需要の喚起を図る。(水浜線探訪歴史探訪フリーきっぷ、世界一楽しい片道きっぷ) ・バス利用啓蒙活動として沿線自治体のイベントに参加し、ICカードを利用したバスの	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	A 1日当たりの輸送量56.5人、収支率65.3%以上の目標に対し、輸送量は61.0人、収支率66.6%と目標を達成した。	大洗町を舞台としたアニメの企画乗車券の販売を継続し、新たな需要の喚起を図る。 ・沿線地区でのイベント等に積極的に参加し、バス利用啓発活動としてICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名： 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
		<ul style="list-style-type: none"> ・バスに多量にICカードを利用したバスの乗り方教室を実施する。 ・沿線地区への時刻表配布 ・利用状況より適正なダイヤの見直し 			<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(企画乗車券の販売・路線バスの旅販売強化)
茨城交通(株) 系統:茨大前営業所～平磯中学校下	茨大前営業所～東大野～平磯中学校下の運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 近隣学校の登下校時刻に合わせた運行時刻を設定し、利用者にとって使いやすい地域公共交通機関として最適化された状況に改善する。 ・通学定期利用者獲得のため、沿線各種学校にて新入生及び在校生を対象とした通学定期券の出張販売を実施する。(那珂湊高等学校)	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量86.9人、収支率87.8%以上の目標に対し、沿線学生減少の影響もあり輸送量は78.0人、収支率は79.3%と目標に達しなかった。	近隣学校の登下校時刻に合わせた運行時刻を設定し、利用者にとって使いやすい地域公共交通機関として最適化された状況に改善する。 ・バス利用啓発活動としてICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(企画乗車券の販売・路線バスの旅)
茨城交通(株) 系統:水戸駅～友部駅	水戸駅～旭台団地入口～友部駅の運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 沿線市と連携し、潜在的な利用者の掘り起しのため、沿線団地へ時刻表のポスティングを行う。(笠間市旭台団地) ・通学定期利用者獲得のため、沿線各種学校にて新入生及び在校生を対象とした通学定期券の出張販売を実施する。(茨城歯科専門学校) ・利用状況による適正なダイヤ見直し	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量29.0人、収支率76.3%以上の目標に対し、輸送量25.5人、収支率65.8%と沿線学生の減少、燃料費高止まりによる運送費増加もあり目標に達しなかった。	沿線市と連携し、潜在的な利用者の掘り起しのため、沿線団地へ時刻表のポスティングを行う。(笠間市旭台団地) ・通学定期利用者獲得のため、沿線各種学校にて新入生及び在校生を対象とした通学定期券の出張販売を継続実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(バスマップの作成・ポスティングの実施・沿線施設バス利用促進施策の実施)
茨城交通(株) 系統:赤塚駅南口～水戸医療センター	赤塚駅南口～桜の牧高校前～水戸医療センターの運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 ・通学定期利用者獲得のため、沿線各種学校にて新入生及び在校生を対象とした通学定期券の出張販売を実施する。(桜ノ牧高校) ・水戸医療センター通院者の利便性確保のためポケット時刻表を設置する。 ・沿線地区へバスマップ時刻表を作成し配布。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量35.6人、収支率54.9%以上の目標に対し、沿線学校移設による学生利用減少もあり、輸送量は25.0人、収支率38.6%と目標に達しなかった。	・通学定期利用者獲得のため、沿線各種学校にて新入生及び在校生を対象とした通学定期券の出張販売を継続して実施する。 ・水戸医療センター通院者の利便性確保のためポケット時刻表を継続して配布する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(バスマップ作成・ポスティングの実施・校外学習誘致)
		定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用		1日当たりの輸送量69.8人、収支率	・バス利用啓発活動としてICカードを利用したバスの乗り方教室を実施する。 ・買い物客のマイカーからバス利用への転

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名: 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
茨城交通(株) 系統:水戸駅～イオンモール水戸内原	水戸駅～赤塚駅～イオンモール水戸内原の運行	同を把握するにともな、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 ・買い物客のマイカーからバス利用への転換を図るため、企画乗車券を継続発売。 ・沿線学校での乗り方教室を実施。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 93.0%以上の目標に対し、輸送量は69.8人と目標に達したが、運送費が想定を上回り、収支率は90.8%と若干目標に達することができなかった。	・買い物客のマイカーからバス利用への転換を図るため、イオンモール水戸内原にて時刻表の配布を行う。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(企画乗車券の販売・路線バスの旅販売強化)
茨城交通(株) 系統:水戸駅～野口車庫	水戸駅～石塚車庫～野口車庫の運行	毎月実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 ・利用者の利便性を確保するため普通運賃・定期運賃の割引を継続して実施する。(実証実験) ・沿線市町と連携し、市報・町報を通じたバス利用の広報活動を行う。(水戸市・城里町)また、毎月1回庁舎内にて定期券の出張販売を継続して行う。(城里町) ・バス利用啓発活動として沿線の高齢者クラブに出向き、ICカードを利用したバスの乗り方教室、ICカードの出張販売を実施する。旅客のニーズに合わせたダイヤ改正を実施する。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量40.7人、収支率88.6%以上の目標に対し、輸送量は35.1人、収支率74.8%と沿線学生の減少、燃料費高止まりによる運送費増加もあり目標に達しなかった。	・利用者の利便性を確保するため普通運賃・定期運賃の割引を継続して実施する。(実証実験) ・沿線市町と連携し、市報・町報を通じたバス利用の広報活動を行う。(水戸市・城里町)また、毎月1回庁舎内にて定期券の出張販売を継続して行う。(城里町) ・バス利用啓発活動としてICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(企画乗車券の販売・校外学習誘致・バス利用促進チラシの作成配布・運転免許証自主返納者支援事業・バスマップ作成配布)
茨城交通(株) 系統:水戸駅～下江戸	水戸駅～国田局前～下江戸の運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 沿線義務教育学校3年生へ高校進学時のバス利用促進チラシを配布し、通学利用者の増客を見込む。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量19.0人、収支率67.2%以上の目標に対し、輸送量は18.5人、収支率63.3%と沿線学生の減少、燃料費高止まりによる運送費増加もあり目標に達しなかった。	・バス利用啓発活動として将来の利用者になる小学生を対象に、学校に向いてICカードを利用したバスの乗り方教室を実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(バスの乗り方教室の開催・バス利用促進チラシの作成配布)
茨城交通(株) 系統:茨大前営業所～勝田営業所	茨大前営業所～勝田駅前～勝田営業所の運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 ・バス利用啓発活動として沿線自治体のイベントに参加し、ICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。 ・バスマップを作成し、沿線地区へ配布	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量34.2人、収支率82.2%以上の目標に対し、輸送量は33.4人、収支率79.0%と沿線学生の減少、燃料費高止まりによる運送費増加もあり目標に達しなかった。	・バス利用啓蒙活動として沿線自治体のイベントに参加し、ICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(バスマップ作成・ポスティングの実施)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名: 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
茨城交通(株) 系統:水戸駅～笠松運動公園前	水戸駅～市毛十文字～笠松運動公園前の運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 ・バス利用啓発活動として沿線自治体のイベントに参加し、ICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。 ・沿線施設と連携したアクセス情報の発信	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	A 1日当たりの輸送量26.1人、収支率88.8%以上の目標に対し、輸送量は27.7人、収支率91.6%と目標を達成した。	・バス利用啓蒙活動として沿線自治体のイベントに参加し、ICカードを利用したバスの乗り方教室を継続して実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(バスマップの作成・ポスティングの実施・沿線施設バス利用促進施策の実施)
茨城交通(株) 系統:鯉淵営業所～水戸駅	鯉淵営業所～河和田小学校～水戸駅の運行	定期的実施している乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き次のとおり利用促進策を実施。 沿線市と連携し、潜在的な利用者の掘り起しのため、沿線団地へ時刻表のポスティングを行う。(笠間市旭台団地) ・通学定期利用者獲得のため、沿線各種学校にて新入生及び在校生を対象とした通学定期券の出張販売を実施する。(茨城歯科専門学校) ・利用状況による適正なダイヤ見直し	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たりの輸送量37.7人、収支率91.9%以上の目標に対し、輸送量は37.4人、収支率85.9%と沿線学生の減少、燃料費高止まりによる運送費増加もあり目標に達しなかった。	・通学定期利用者獲得のため、沿線各種学校にて新入生及び在校生を対象とした通学定期券の出張販売を継続して実施する。 ・生産性向上の取組で設定した内容の実施(バスマップの作成・ポスティングの実施・沿線施設バス利用促進施策の実施)
事業者名:日立電鉄交通サービス(株) 系統:馬場八幡前～大橋～大甕駅前線	馬場八幡前～大橋～大甕駅前線の運行	①バスの乗り方教室開催 沿線各地区でのバスの乗り方教室の実施 ②日立市のお出掛け支援事業に協力し、お得な路線バス運賃カードを販売 ③平成27年10月常陸太田市再編実施計画(第一次)実施 ④平成31年3月のBRT第Ⅱ期(大みか駅～多賀駅間延伸)にあわせ、日立市内のバス路線の再編を実施する。	A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。	A 【目標】 ○1日当り輸送量 43.1人 ○収支率 43.1% ○収入増 120,000円/年 ○輸送人員増 400人/年 【結果】 ○1日当り輸送量 44.1人 ○収支率 40.5% ○収入 227,000円増/年 ○輸送人員 1,943人増/年 収支率以外は、目標達成できた。 収支率は、2016年10月から、当該系統の常陸太田市内でゾーン運賃を実施している為、最大410円→200円と市内全域運賃が半額のため目標値を下回っているが、乗車人員は、対前年比1,943人増加、収入は、対前年比227,000円/年増えている。 沿線市の通勤・通学・沿線住民の買物、通院等日常生活に必要な移動手段を確保するための必要な路線である。	運行市(日立市・常陸太田市)と連携し、利用者のニーズを活かした運行を行うことで、目標を達成すべく持続可能な運行を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名: 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者名: 日立電鉄交通サービス(株) 系統: 馬場八幡前～はたそめ入口～大甕駅前線</p>	<p>馬場八幡前～はたそめ入口～大甕駅前線の運行</p>	<p>①バスの乗り方教室開催 沿線各地区でのバスの乗り方教室の実施 ②日立市のお出掛け支援事業に協力し、お得な路線バス運賃カードを販売 ③平成27年10月常陸太田市再編実施計画(第一次)実施 ④平成31年3月のBRT第Ⅱ期(大みか駅～多賀駅間延伸)にあわせ、日立市内のバス路線の再編を実施する。</p>	<p>A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</p>	<p>【目標】 ○1日当り輸送量 19.2人 ○収支率 42.2% ○収入増 61,000円/年 ○輸送人員増 180人/年 【結果】 ○1日当り輸送量 22.4人 ○収支率 40.5% ○収入 1,197,600円/年 ○輸送人員 4,905人増/年 収支率以外は、目標達成できた。 収支率は、2016年10月から、当該系統の常陸太田市内でゾーン運賃を実施している為、最大410円→200円と市内全域運賃が半額のため目標値を下回っているが、乗車人員は、対前年比4,905人増加、収入は、対前年比1,197,600円/年増えている。 沿線市の通勤・通学・沿線住民の買物、通院等日常生活に必要な移動手段を確保するための必要な路線である。</p>	<p>運行市(日立市・常陸太田市)と連携し、利用者のニーズを活かした運行を行うことで、目標を達成すべく持続可能な運行を実施する。</p>
<p>事業者名: 日立電鉄交通サービス(株) 系統: 真弓ヶ丘～南高野団地～大甕駅前線</p>	<p>真弓ヶ丘～南高野団地～大甕駅前線の運行</p>	<p>①バスの乗り方教室開催 沿線各地区でのバスの乗り方教室の実施 ②日立市のお出掛け支援事業に協力し、お得な路線バス運賃カードを販売 ③平成27年10月常陸太田市再編実施計画(第一次)実施 ④平成31年3月のBRT第Ⅱ期(大みか駅～多賀駅間延伸)にあわせ、日立市内のバス路線の再編を実施する。</p>	<p>A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</p>	<p>【目標】 ○1日当り輸送量 57.0人 ○収支率 54.6% ○収入増 104,000円/年 ○輸送人員増 630人/年 【結果】 ○1日当り輸送量 54.5人 ○収支率 52.5% ○収入 176,000円減/年 ○輸送人員 1,656人減/年 すべての目標値において達成しなかったが、該当系統は、沿線市の団地内を走行する路線であり通勤・通学・沿線住民の買物、通院等日常生活に必要な移動手段を確保するための必要な路線である。</p>	<p>運行市(日立市・常陸太田市)と連携し、利用者のニーズを活かした運行を行うことで、目標を達成すべく持続可能な運行を実施する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名: 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 日立電鉄交通サービス(株) 系統: 日立駅～砂沢～十王駅前線	日立駅～砂沢～十王駅前の運行	①バスの乗り方教室開催 沿線各地区でのバスの乗り方教室の実施 ②日立市のお出掛け支援事業に協力し、お得な路線バス運賃カードを販売	A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。	B 【目標】 ○1日当り輸送量 23.4人 ○収支率 69.3% ○収入増 62,000円/年 ○輸送人員増 300人/年 【結果】 ○1日当り輸送量 22.8人 ○収支率 66.6% ○収入 85,000円減/年 輸送人員は、対前年比347人減/年となっている。 すべての目標値において達成しなかったが、該当系統は、沿線市の山側走行する路線であり通勤・通学・沿線住民の買物、通院等日常生活に必要な移動手段を確保するための必要な路線である。	運行市(日立市)と連携し、利用者のニーズを活かした運行を行うことで、目標を達成すべく持続可能な運行を実施する。
事業者名: 日立電鉄交通サービス(株) 系統: 日立駅～国道6号～十王駅前線	日立駅～国道6号～十王駅前の運行	①バスの乗り方教室開催 沿線各地区でのバスの乗り方教室の実施 ②日立市のお出掛け支援事業に協力し、お得な路線バス運賃カードを販売	A 計画に位置づけられた事業は適切に実施された。	B 【目標】 ○1日当り輸送量 21.9人 ○収支率 58.2% ○収入増 61,000円/年 ○輸送人員 270人/年 【結果】 ○1日当り輸送量 20.8人 ○収支率 54.2% ○収入 489,000円増/年 輸送人員は、対前年比2,052人増/年となっている。 収入・輸送人員が目標達成できた。該当系統は、沿線市の海側・団地内走行する路線であり通勤・通学・沿線住民の買物、通院等日常生活に必要な移動手段を確保するための必要な路線である。	運行市(日立市)と連携し、利用者のニーズを活かした運行を行うことで、目標を達成すべく持続可能な運行を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名: 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者: 茨城急行自動車(株) 系統: 古河駅東口～友愛記念病院	古河駅東口～古河第一高校前～友愛記念病院の運行	将来的な通勤利用者を確保するため、時刻表の配布等による共通学生フリーパスの販売促進策を実施。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たり輸送量17.4人、収支率62.7%の目標に対し、1日当たり輸送量は18.4人、収支率は60.1%となり輸送量は目標を達成できたが燃料費を含む費用の上昇により収支率は目標を達成できなかった。事業実施により沿線住民の通勤・通学、通院等に必要な移動手段が確保された。	H28年度は共通学生フリーパスの販売はなく、H30年度の増収に影響していることから学生への周知方法の見直しを行う。また、車内・駅等での時刻表の配布を行い利用促進及び経費の削減で目標の達成を図る。
事業者: 茨城急行自動車(株) 系統: 古河駅東口～八千代町役場	古河駅東口～牛ヶ谷～八千代町役場の運行	将来的な通勤利用者を確保するため、時刻表の配布等による共通学生フリーパスの販売促進策を実施。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	A 1日当たり輸送量40.5人、収支率68.6%の目標に対し、1日当たり輸送量は、49.2人、収支率は75.3%となり目標を達成した。	車内、沿線学校等での時刻表の配布を行い利用促進及び経費の削減で目標の達成を図る。
事業者: 茨城急行自動車(株) 系統: 古河駅東口～三和庁舎	古河駅東口～牛ヶ谷～三和庁舎の運行	将来的な通勤利用者を確保するため、時刻表の配布等による共通学生フリーパスの販売促進策を実施。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たり輸送量26.6人、収支率86.6%の目標に対し、1日当たり輸送量は28.7人、収支率は86.0%となり輸送量は目標を達成できたが燃料費を含む費用の上昇により収支率は目標を達成できなかった。事業実施により沿線住民の通勤・通学、通院等に必要な移動手段が確保された。	H28年度は共通学生フリーパスの販売はなく、H30年度の増収に影響していることから学生への周知方法の見直しを行う。また、車内・駅等での時刻表の配布を行い利用促進及び経費の削減で目標の達成を図る。
事業者: 茨城急行自動車(株) 系統: 古河駅東口～三和庁舎	古河駅東口～丘里工業団地～三和庁舎の運行	将来的な通勤利用者を確保するため、時刻表の配布等による共通学生フリーパスの販売促進策を実施。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 1日当たり輸送量43.2人、収支率71.0%の目標に対し、1日当たり輸送量は43.2人、収支率は65.5%となり輸送量は目標を達成できたが燃料費を含む費用の上昇により収支率は目標を達成できなかった。事業実施により沿線住民の通勤・通学、通院等に必要な移動手段が確保された。	H28年度は共通学生フリーパスの販売はなく、H30年度の増収に影響していることから学生への周知方法の見直しを行う。また、車内・駅等での時刻表の配布を行い利用促進及び経費の削減で目標の達成を図る。
事業者名: 朝日自動車(株) 境車庫～釈迦～古河駅西口	運行区間: [起点]境車庫 [主な経由地]釈迦 [終点]古河駅西口	共通学生フリーパスの販売時期(平成29年9月～10月、平成30年3月～4月)に合わせ沿線の学校や自社ホームページとバス車内で周知した。	A	事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	A 輸送人員の目標69,280人に対して実績は92,194人であり目標を達成した。	引き続き共通学生フリーパスの拡販を実施し、将来の通勤利用に繋げる。バスの乗り方教室を実施し需要の掘り起こしを図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名: 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者名:朝日自動車(株) 五霞町役場～幸手駅	運行区間: [起点]五霞町役場 [主な経由地]辰堂 [終点]幸手駅	平成30年3月～4月に権現堂公園で開催される「桜まつり」に合わせ、まつり会場へバスの乗入れを実施した。 権現堂公園について、幸手市と連携し、桜・紫陽花・彼岸花等の周知活動を実施した。 平成30年2月に鉄道との接続を考慮したダイヤ改正を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 輸送人員の目標48,081人に対して実績は51,897人であり目標を達成した。	権現堂公園の「桜まつり」開催時は、バス乗入れにより昨年同時期と比べ10万円の収入増となったが、周辺道路の渋滞により大幅に遅延が発生してしまうため、歩いてまつり会場へ行く方が多くいた。バスの定時性や速達性を確保するために関係各所と連携し、渋滞緩和策を検討する。通勤通学での利用者が減少基調にあるため、バスの乗り方教室を実施し需要の掘り起こしを図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)案

平成30年1月 日

協議会名: 茨城県バス対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金(車両減価償却費)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者: 関東鉄道 路線: 水海道駅～土浦駅西口</p>	<p>水海道駅～みどりの駅～土浦駅西口間におけるノンステップバスの導入</p>	<p>水海道駅～土浦駅西口間におけるノンステップバスの走行率を向上させ、利用者利便の向上を図る。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。</p>	<p>A 水海道駅～土浦駅西口間におけるノンステップバスの走行率を50%以上とするという目標に対し、走行率65%となった。</p>	<p>引き続きノンステップバスの導入を計画的に進める。</p>
<p>事業者名: 朝日自動車株式会社 系統: 五霞町役場～幸手駅</p>	<p>五霞町役場～幸手駅線におけるノンステップバスの導入</p>	<p>五霞町役場～幸手駅線におけるノンステップバスの走行率を向上させ、お客様の利便性向上を図る。</p>	<p>A 計画通り適切に実施された。</p>	<p>B 当該路線におけるノンステップバスの走行率を90%以上(H28年度0%)にするという目標に対して、予定台数1台を計画通り導入し、走行率90%となった。</p>	<p>引き続きノンステップバスの普及を計画的に進める。</p>